

# 「ブナコ」(弘前) 本県オリジナルの木工品製造

## デザイン性 世界が注目

表面に浮かび上がる木目模様、滑らかな肌触り。ブナのぬくもりが伝わる「ブナコ」は、本県オリジナルの木工製品だ。最近メディアでも大きく取り上げられるようになった。

### 発見必見

あおもり 経済 25

#### 工程は分業制

製造元はその名もずば「ブナコ(弘前市)」。パリで開催されている「デザイン・オブジェ」に出展し注目を集めるようになった。厳しい審査をくぐり抜け2009年から毎年出品。世界中から集まるデザイン性の優れた製品類の中でも注目度は高く、今年は「VOGUE」「ELLE」といった一流ブランド雑誌の取材を受けた。

世界的なファッションブランドのルイ・ヴィトンも同様に、裁断、縫製、組み立てなどバッグの製造を分業制にしている。「うちは県の伝統工芸品に指定されているが、厳密には手工芸ではなく手工業。ウイTONのバッグを工芸品と呼ぶのと同じ」と倉田社長は言う。

社員の小田桐美奈子さんが作業場を案内してくれた。最初の作業工程は単板加工。材料はもちろんブナ。木工品は通常、木材を削ったり切断したりして成形するがブナコは違う。ブナの丸太を大根のかつらむきのように1センチの厚さでむいていき、ベニヤ板のような単板にする。これを6×12センチの幅でテープ状に切断していく。

切断したテープは専用の型にしっかりと巻き付ける。型は完成時のデザインを基に円や楕円の形をし、ブナコ製品の原型となる。ブナのテープが何重にも巻かれた型は、次の工程に進む。



ブナのテープを巻き付けた型に湯飲みをあてて成形していく社員

成形作業部屋では社員が

一通り見終わると倉田社長が「気づきましたか」と



今年の「メゾン・エ・オブジェ」に出品したブナコの商品(ブナコ提供)

テーブルに押しつけた型に湯飲み茶碗をあてがって、型をグルグル回している。「巻き付けたテープを、湯飲みですらしています。ずらす幅が大きいと底の深いボウルに、幅が小さいとお盆のような形になります」と小田桐さん。ずらす幅は図面で厳密に決められ、ここで製品の形が定まる。

成形後は、接着剤で接着して着色。その上に撥水、耐熱性のある塗料をコーティングして研磨する作業を数度繰り返し、光沢と質感のある製品に仕上げる。大きさや形状により差はあるが、完成まで10〜14日間かかるという。

「見た目が似た商品はあるが、ブナコのようにすべて木だけで作られた照明器具はない。塗料一つとってもオリジナルで各工程にノウハウがある。製法を知らなくても同じものは作れないと自負している」と、倉田社長は世界を見据えた。

#### すべて曲線

すべて曲線

(秋元宏宣)